

さわらび

2020. 3. 2 No. 28 文責：大塚

2月28日（金）の学校運営協議会で委員の皆様からご意見をいただき、下記の令和元年度の「学校評価書」が完成しました。この1年間の本校の取組の振り返りとして、また次年度への指針となるものです。ご一読いただければ幸いです。

令和2年3月2日

令和元年度 学校評価書

四万十市立藤岡中学校
 学校長 大塚明人 印

1. 学校教育目標

「自立・貢献」できる生徒の育成

2. 本校の現状

平成30年度の高知県学力定着状況調査では現2、3年ともに全教科県平均+18P～+21Pと高く、基礎的な力はあるが、思考力・判断力・表現力が必要な記述式問題には課題があり、全教科の平均正答率は27.6%であった。また、家庭学習の宿題提出率はほぼ100%であるが、自主的な予習ができていない生徒は過半数を超えておらず、自ら取り組むことには課題がある。

生活全般にわたってまじめな生活が送れている。課題として生徒・教職員ともに捉えているのは、コミュニケーションや社交性といった部分である。外に出たときのあいさつや積極的に関わろうとする姿勢などは、経験を通して伸ばしていかなければならないところである。

少人数のため部活動は全員で陸上競技に取り組んでおり、運動が苦手な生徒もがんばって参加している。

3. 本年度の評価項目

- [1]学力向上
- ①学力向上のための組織的な校内研修等の取組
 - ②子どもにわかる授業づくり
 - ③予習・復習の質と量を高める取組
- [2]生徒指導
- ①いじめの防止等のための取組
 - ②豊かな心の育成
 - ③不登校0名を目指す取組
- [3]学校・家庭・地域の連携・協働
- ①小中の円滑な接続の推進
 - ②みんなであいさつ運動
 - ③PTA・各学校支援組織との連携
- [4]働き方改革(業務改善)
- ①タイムマネジメントを意識した会議・研修の実施
 - ②定時退校日の確実な実施
 - ③最終退校時刻を意識した職務推進

4. 自己評価

評価項目	評価指標	取組状況・成果	評価	次年度の方策
大 中				
[1]学力向上	①学力向上のための組織的な校内研修等の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○計画通りの研究授業を実施してきた。キャリア教育の視点での授業作りについても研修を深めた。 ○毎週水曜日を基本として、学力向上にかかわる内容を研修する場を設けて、全員で取り組んだ。 ○全員が主体的に参加して学びあっているが、少人数の職員集団なのでマンネリ化への対策は必要である。 	3	○今年度の取組を引き継ぎながら、少人数の職員集団に応じた研修の手法も工夫していく。
	②子どもにわかる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○研究主題「自ら考え、判断し、表現する力の育成 ～主体的な学び方へのアプローチをとおして～」に基づいて、研究実践に取り組んだ。 ○県版学テ正答率は全国比+14.6P、記述式問題の正答率は63.6%であった。目標値はほぼ達成しているが、基本的な知識理解の部分で誤答が見られたことは課題である。 ○意欲向上にも繋がる検定試験は、英語検定・漢字検定とも全員がいずれかを受検し、合格率もほぼ100%である。 	3	○授業改善プランに基づいた実践を継続する。 ○基本的な知識理解の定着は、各教科の授業の中で定着を図る取組を3学期から始めており、その検証をしながら継続していく。

	③予習・復習の質と量を高める取組	各教科の特徴を生かした予習・復習を確立して、授業との連携を図る。	○予習・復習は、各教科の特徴に応じたやり方を取り組んできた。指示された内容についてはほぼ確実にこなしたが、自主的な予習までは至っていない。	3	○卒業後の自学自習する力を付けるためにも、自主的な予習・復習に取り組んでいく。
〔2〕生徒指導	①いじめの防止等のための取組	○Q・Uを年間2回、いじめに関するアンケート年間3回を計画的に実施する。 ○SCと連携して生徒の変化を見逃さない体制を作る。 ○生徒情報の共有を毎日行う。	○計画通りにQ・Uやいじめに関するアンケートなどに取り組んだ。(生徒数減のため、3日たつていかずアンケートは中止) ○SCやSHLとも連携して、安心して過ごせる学級・学校づくりに取り組んだ。また、全教職員で生徒を育ていく視点が共有されている。	4	○より小規模校となっても、生徒が安心して過ごせる学級・学校づくりは、本校の基本として継続していく。
	②豊かな心の育成	○道徳教育・人権教育の推進を図り、保護者・地域の方を対象とした公開授業を各1回以上行い、連携した取り組みを目指す。 ○全学年合同学級の実施により、他者の意見に触れる機会を増やす。 ○「自分よいくところがある」100%。	○道徳教育・人権教育とも、ほぼ計画通り実施した。参観日も保護者だけでなく、地域の方々も参加して行えた。 ○異学年合同での授業によって、多様な意見にふれることができた。 ○自尊心や夢・志にかかわる意識調査の数値は、いずれも100%である。	4	○継続していく。
	③不登校0名を目指す取組	「1②子どもにわかる授業づくり」「2①いじめ防止等の取組」に加えて ○生徒作品が掲示されている学校環境。 ○生活日誌を活用したきめ細かい指導の継続。 ○生徒主体の学校行事の実施。	○生徒作品は、各教科の授業で制作したものを掲示・展示しており、学校生活の様子分かる写真も校内に掲示している。 ○生活日誌のコメント欄を活用して、担任と生徒のやりとりが行われている。 ○生徒主体の学校行事は、少人数ながらもできる範囲で行ってきた。	4	○継続していく。
〔3〕学校・家庭・地域の連携・協働	①小中の円滑な連携の推進	○保小中合同職員会(学期に1回) ○小中合同校内研(年間2回) ○わらたけノビノピ会(年間5回)などを活用して、計画的・継続的に学力と生活についての連携をすすめる。	○保・小・中の計画的で継続的な連携は行ってきた。具体的な行事の中でも、中学生が保の小のよいモデルとなる機会もあった。 ○蕨岡小学校との合同校内研は、実施できなかった。少人数の教員で授業を担当しているため、県や市の研修以外で学校を空ける時間を生み出すことが難しかった。	3	○保・小・中の連携は継続していく。また、時間設定や内容を工夫して、小学校と共に学び合う機会を設定したい。
	②みんなであいさつ運動	月1回+交通安全週間に生徒会執行部が中心となり、あいさつ運動を行うとともに、部活動等でのあいさつ等、礼儀の大切さを常時指導する。	○あいさつ運動は計画通り実施でき、元気なあいさつを行った。 ○部活動やその他の場面でも啓発してきたが、自分から大きな声であいさつできるまでは至っていない。	3	○自分から大きな声でできることを目指して、継続していく。
	③PTA・各学校支援組織との連携	各組織の定例会議を計画的に行い(PTA役員会4回、学校運営協議会5回等)、地域・保護者との信頼関係を構築しながら実践をすすめる。	○計画通りに実施した。学校運営協議会では、次年度の休校記念事業実行委員会の準備を進めた。自校の取組を進めていくうえで、貴重な会議となっている。	4	○休校記念事業実行委員会の円滑な運営とともに、令和3年度からの蕨岡保・小の取組に引き継ぐ活動を計画的に実施する。
〔4〕働き方改革(業務改善)	①タイムマネジメントを意識した会議・研修の実施	○職員会・校内研は、17時を目処として勤務時間内での実施を目指す。 ○タイムマネジメントを意識した具体的取組としては、 ①訂正の必要のない提案資料 ②開始時刻を守った会議 ③確認事項・協議事項の区別を全員が共有する。	○提示資料の精選と、連絡事項・協議事項を明確にすることで、ほぼ勤務時間内に会議を終了している。	4	○会議以外でも、校内文書の提出の切りや取組スケジュールを早め早めに共有すること等を継続していく。
	②定時退校日の確実な実施	○水曜日を基本とした定時退校日を設定して、18時30分までに全員が退校する。 ○職員会・校内研を他の曜日に実施したときも同様とする。	○水曜日の定時退校日(18:30)は、年間2.3回超える職員がいる程度で、ほぼ達成している。	3	○継続していく。
	③最終退校時刻を意識した職務推進	○定時退校日以外は、19時30分を最終退校時刻として、毎月80%以上の達成を目指す。	○19:30の最終退校時刻の達成率は、ほぼ100%であり、目標値を達成している。	4	○継続していく。

4段階評価(4 目標を十分に達成、3 ほぼ目標を達成、2 やや不十分、1 改善を要する)

5. 学校関係者評価

○参観日の授業を参観したが、とても分かりやすい授業をしてくれていると感じた。自分が中学生のときにこういう授業を受けたかったという声も伝え聞いた。
○学校運営協議会委員が参観した英語科の授業では、コミュニケーション力を伸ばす英語教育がなされていることや生徒個々を大事にした授業の取組が伝わってきた。
○保育所での体験学習などでも、生徒全員が積極的に関わろうとする姿勢があった。少人数の良さを生かした取組が、子どもたちの成長につながっている。
○保小中の連携の中で、中学生の一生懸命さが印象に残っている。地域の協力体制の中でしっかり育てている。
○これからも1人1人を大事にかかわれる強みを生かして行ってほしいし、生徒たちの発表力も伸びてきていると思う。
○次年度は、この「学校評価書」の評価項目の中で学校独自で設定できる項目を再度見直して、小規模校ならではの取組（蕨岡中ならではの取組）の成果を幅広く取り上げて、評価・公表できるものにしてほしい。

■このような学校評価をふまえての次年度の主な取組は、下記のようなものを予定しております。今年度の実践を引き継ぎつつ1つ1つしっかり取り組んで、生徒の学力の向上とともに「知・徳・体」のバランスのとれた成長につなげたいと思います。

(1) 卒業後を見通した自学自習の力を伸ばす～自主的な予習・復習～

本校の生徒の学習面の課題は、ここであるかと考えています。

現在は、生徒の真面目に前向きに取り組む姿勢を基礎として、各教員の授業改善や少人数の強みを生かした関わりによって、各種の学力調査では全国比を上回る平均正答率です。しかしながら、高等学校では大人数の中で学んでいくことになります。そこでは、今まで以上に自分で学ぶことのできる力＝自主的な予習・復習の力は大事になります。生徒たちが次のステージでも個々の学力を伸ばしていけるように、予習・復習も含めた学習の仕方を身につけていく必要があると考えています。

これは学校だけの指導・支援では達成できません。学び手である生徒本人はもちろんですが、各ご家庭との協力がなしにはできないことです。「子どもの勉強をみる」という意味には、「勉強を教える」だけでなく「学習に取り組む環境をつくる」という意味も含まれています。保護者・地域・教職員それぞれが分担・連携して、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

(2) 今年度の取組の継続～環境整備と『はるかのひまわり』～

「今年度は少人数になったけれど、令和3年3月まできれいに使い続けよう」と、学校の環境整備を大事にできました。また、自校の歴史の1ページに防災や人とつながることへの願いを込めた『はるかのひまわり』を取り入れて、生徒会が中心で育てて大阪市の中学校と交流してきました。これらの取組には、保護者・地域の皆様へたいへんお世話になりました。次年度も継続したいと思います。

(3) 生徒にとっても学校にとっても締めくくりとなる学び～地域に根ざした総合的な学習の時間～

本年度の総合的な学習の時間は、「休校記念誌」作成のための卒業生インタビューに取り組んできました。このことは、すでに生徒の発表や学校通信『さわらび』等で報告させていただきました。各年代の卒業生の皆様の思いにふれて、生徒・教職員ともに心揺さぶられるものがありました。『「自立・貢献」できる生徒の育成』という学校教育目標の根拠となる、私たちの立ち位置を確かめることにもなったのではないかと思います。

次年度は、生徒にとっても学校にとっても締めくくりとなる学びを行う予定です。小学校で学んだ「蕨岡史跡めぐり」や1年次に取り組んだ「蕨岡のお宝発見」等の総合学習をさらに発展させて総まとめになる学習です。そのためには、学校運営協議会やわらたけノビノビ会を中心として、今まで同様に地域といっしょに取り組むことが欠かせないと考えています。

次年度も本校の取組に対してのご支援・ご協力をお願いいたします。

【お知らせ】平成15年4月に本校と統合した竹屋敷中学校のときに「休校……」という名称を使用しているため、今まで「閉校記念誌」等と使用していた部分を「休校記念誌」「休校記念事業」と統一したいと思います。

